アジャイル型開発のためのプロジェクトマネジメント教育に関する研究

PMコース　矢吹研究室　1042098　野口杏子

1. 研究の背景

　現在，ソフトウェア開発におけるアジャイル型開発プロセスが注目を集めている．アジャイル開発とは，動くソフトウェアを2～3週間から2～3ヵ月というできるだけ短い時間間隔で繰り返し引き渡す継続的な開発手法である．従来のウォーターフォール型開発と異なり，市場変化が厳しい状況にも俊敏に対応できることにより注目されている．しかし，教育現場ではアジャイル型開発よりもウォーターフォール型開発に関する教育実績を積んでいるのが現状です．さまざまな企業でもアジャイル型開発の利用を検討しています．

　ソフトウェア開発のツールとして，Githubが流行っており，世界で2012年5月の時点で170万人を超えていて，2013年9月には530万人と1年ちょっとで3倍以上伸びています．多くの開発者が利用するツールとなってきています．Githubは，バージョン管理やWiki だけではなく多くの人で同時に変更，ローカル環境でも作動するなどを行うことができることから開発に適しており利用されている．

このことから，今後のソフトウェア開発における必要知識は，Githubを用いたアジャイル型開発だと考えられる．

近年，パソコン・タブレットの普及とともにインターネットの利用者が増え続けている．そこからeラーニングと呼ばれる授業形式が行われるようになってきています．eラーニングとは，パソコンやCD/DVDなどの電子的なものを用いて行うものでありインターネットを使えばよいというものではない．最近は授業で使いやすいようにさまざまな企業などでLMS（学習管理システム:Learning Management System）が開発されている．たとえばMoodle，Smart FORCE，Blackboardなど，用途に応じてさまざまなものがある．あくまで，授業管理のためのシステムであるので資料の配布や成績の管理などが基本である．ソフトウェア開発に適してはいないので，開発で利用されているツールであるGithubに，LMSであるような機能を追加することによって，ソフトウェア開発の授業で利用できるものができる．

1. 研究目的

　本研究では，eラーニングによるLMSを活用したアジャイル型開発を学ぶ環境を作ることを目的とする．これによりシステム開発の環境変化に適応しやすく，新しくマネジメントできるツールに対しての知識向上を図る．

1. 研究方法
   1. アジャイル型開発についての調査する
   2. アジャイル型開発で利用されるツールの調査する
   3. 教育現場への導入方法を提案する
   4. 教育現場に導入・検証
   5. 改善プログラム作成
2. 成果物イメージ

　Githubに追加のプログラムを導入することで，新しいものを作る．

1. 今後の計画

|  |  |
| --- | --- |
| 10月 | 教育効果を検証 |
| 11月 | 考察し，改善案を思考 |
| 12月 | プログラム作成 |
| 1月 | 論文，発表資料作成 |

参考文献

[1] IPA. 非ウォーターフォール型開発の普及要因と適用領域の拡大に関する調査. 2012-06-24. <http://sec.ipa.go.jp/reports/20120611/reports_20120611-2.pdf>.

[2] 日経コンピューターReport. 楽天がアジャイル開発を全社へ展開. 2012-11-27. <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20121116/437986/?k3>.

[3] WEB+DB PRESS Vol.69. 2012-07-25.